

さやまの昔ばなし

18

このコーナーでは、昔から市内で語り継がれている言い伝えなどを、池原さん流の描画で紹介します。



おとうかやまと子どもたち
 堀兼の加佐志には、「おとうか
 やま」と呼ばれる小さな木があり
 ます。おとうかとはキツネのことだ
 け。木にはたくさすすいでおりました。
 キツネは稲荷さまのお使いで、農
 作物の神さまなので、村の人たちは
 キツネを大切にしておった。だが、又
 どもたさにとつては、おとうかやまはこ
 わい木でござい。と、ごどもたさには、
 まものなどをぬき、おとうかにして、まよ
 おばあは「ちんかじるとおとうかが
 くん」といいます。子どもたちは、な
 まものをきくと、敷正理したとつてす。

題字・絵・文／池原昭治氏

池原さんのプロフィールや
 ほかの作品はこちら▼



編集後記

今月号でご紹介した津村節子さんの著書「星祭りの町」。入間川町で過ごされた津村さんの青春時代のことが書かれています。タイトルの星祭りは入間川七夕まつり。当時は、今のような矢来飾りの形ではなかったようですが、戦後まもない頃、手に入るものを使って作った竹飾りで通りを飾り、祭りを楽しむ人々の様子が伝わってきました。

今回、記事にするにあたり津村さんだけでなく、当時の入間川町を知っている方にもお話を聞きました。「昔、この場所には〇〇があった」と、貴重な証言で、私の知らない入間川の街を案内していただきました。八幡神社の鳥居の位置をはじめ、街の大半は現在と姿を変えています。小さな路地など当時の雰囲気を残すところも…。たまには、歴史的な視点から入間川の街を歩いてみるのもいいですね。

広報さやまへのご意見・ご感想は
 はがき・メール・FAXで広報課へ



〒350-1380
 狭山市入間川1丁目23番5号



koho@city.sayama.saitama.jp



TEL 04-2953-1111
 FAX 04-2953-1117



公式
 ホームページ



公式
 フェイスブック



公式
 ツイッター



狭山市LINE
 公式アカウント
 ID:@citysayama



この広報紙は再生紙を使用しています。

